

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科		
科目名称 [英語名称]	緑化工学 [Revegetation Technology]			実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング	
科目コード	281400	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	宮川 央輝			学位授与の方針 との関連	DP1(2) DP2(1) DP3(1) DP3(4)		
授業概要	<p>建設コンサルタントにて、公園緑地、景観まちづくりに関する調査、計画、設計の実務経験及び国家資格(技術士、1級造園施工管理技士)を有する教員が授業を担当する。</p> <p>自然や人工裸地面を迅速に植生で覆うことを目的として行われてきた緑化工技術であるが、近年は生活環境の向上、自然環境の保護や多種防災機能の強化など多面的な目的のために、緑の創生が取り組まれている。本科目においては劣化した植生・生態系およびその諸機能の修復・再生技術と基礎を学ぶ。</p> <p>従来の斜面緑化に関する基礎的な事項に加え、実務経験を踏まえて、実施計画で用いられる屋上緑化や壁面緑化等の都市緑化技術の紹介や、砂漠などの荒地緑化、環境林の造成などを最前線の実例取り扱う。</p> <p>この授業では人工空間や都市域における緑の作り方とその意義について理解できる能力を身につけることを目指している。</p>						
関連する科目	関連する授業として「造園植栽論」「都市緑地論」を受講することが望ましい。						
授業の進め方と方法	この授業では、実社会における即対応能力を育成するため、実際に国土交通省で公開されている緑化工学関連の最新施策資料を取り入れた課題解決型の授業を展開する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス:緑化工学の必要性とその活用 <ul style="list-style-type: none"> 講義の全体的な流れを説明し、実社会に活用される緑化工学の知識を学びます。 緑化工学の概念 <ul style="list-style-type: none"> 緑化工学の専門領域や実際の技術領域を学びます。 緑化工学の最新技術1:みどりをいかす技術(1) 緑化工学の最新技術1:みどりをいかす技術(2) <ul style="list-style-type: none"> 環境問題や景観、レクリエーションの場等に活用される緑化技術と知識を事例とともに学びます。 緑化工学の最新技術2:みどりを育てる技術(1) 緑化工学の最新技術2:みどりを育てる技術(2) <ul style="list-style-type: none"> 水辺や屋上、人工地盤、法面緑化等に活用される緑化技術と知識を事例とともに学びます。 緑化工学の最新技術3:みどりをそだてる技術(1) 緑化工学の最新技術3:みどりをそだてる技術(2) <ul style="list-style-type: none"> 樹木管理やグランドカバー、ビオトープ等の管理に活用される緑化の育成管理技術を事例とともに学びます 緑化工学の最新技術4:みどりをまもる技術 <ul style="list-style-type: none"> 地球環境保全や里地里山保全などに活用される緑化の育成保全技術を事例とともに学びます。 緑化工学の最新技術4:みどりをひろめる技術 <ul style="list-style-type: none"> 緑化の推進や評価技術を事例とともに学びます。 グリーンインフラストラクチャーの課題と国内外の動向 <ul style="list-style-type: none"> グリーンインフラが求められる時代背景とその国内外の事例を学びます。 グリーンインフラの国土行政分野の取組 <ul style="list-style-type: none"> グリーンインフラに関わる国内の施策に触れ、社会で必要となる緑化施策を学びます。 グリーンインフラの取組事例 <ul style="list-style-type: none"> グリーンインフラに関わる国内外の先進事例を学びます。 今後のグリーンインフラの課題と展開(1) 今後のグリーンインフラの課題と展開(2) <ul style="list-style-type: none"> 緑化工学の技術を活かして、現在の社会問題に対しての課題解決を図るための展開方法を学びます。 						
授業の到達目標	緑の創造のために播種や植樹を行うのみならず、現在の社会経済状況や地球環境問題を把握し、実社会に即した問題解決を図るための環境緑化技術を理解する。						
授業時間外の学修	様々な緑化対象をメディア媒体や実物をなるべく多く見て、イメージできるようにする。予習復習など併せて1時間程度の学修が望ましい。						
課題に対するフィードバック	授業内容から実社会の問題解決の考察を図る課題の提出を行う。	評価方法	学習意欲(30点)及び課題提出物(70点)の結果により評価する。論述的な解答が求められる。				
テキスト	必要に応じて資料を配布する。						
参考書	必要に応じて図書、資料を紹介する。						
備考	建設コンサルタントにて、公園緑地、景観まちづくりに関する調査、計画、設計の実務経験及び国家資格(技術士、1級造園施工管理技士)を有する教員が授業を担当する。						